



## カセットボンベ・スプレー缶に係る火災予防

### ● カセットボンベ・スプレー缶の火災発生状況

カセットボンベ・スプレー缶が着火物となった火災は、平成20年から平成29年の10年間で32件発生しています。内訳は、ごみ収集時に発生した火災12件、ガス抜き作業が原因で発生した火災8件、使用方法の不良（接続不良等）による火災5件、ボンベを誤って過熱し爆発した火災4件、その他の原因による火災3件となっています。

### ● 負傷者の発生状況

32件中15件で21名の負傷者が発生しています。21名のうち、7名がガス抜き作業が原因で発生した火災による負傷者で、火災件数が8件であるため、火災が発生した際は、ほぼ負傷者が出ています。また、ボンベを誤って過熱し爆発した火災は、4件全てで負傷者が出ています。

### ● 原因別火災事例

#### ・ごみ収集時に発生した火災

廃棄されたカセットボンベ・スプレー缶にガスが残っており、ごみ収集車積載口の回転板を稼働させ、ごみを圧縮した際に火花等が発生し火災に至った事例が挙げられます。

平成20年4件、21年3件、22年2件、23、24年が各1件、25年以降は29年に1件発生しています。

#### ・ガス抜き作業が原因で発生した火災

台所でカセットボンベ・スプレー缶のガス抜き作業中に、こんろの火に引火して火災となった事例が大半を占めるため、高い確率で負傷者が出ています。

要因として、ガス抜きの注意点を把握できておらず、室内でのガス抜きやボンベに穴を開けてのガス抜き作業をしていることが挙げられます。

平成27、28年に各2件発生しており平成29年6月にも同様の原因で発生し負傷者が出ています。

#### ・使用方法の不良（接続不良等）による火災

カセットボンベの接続不良による火災と機器の使用方法を誤った火災に分けられます。接続不良による火災は、一度火災になると、ガスの噴出が継続する限り火炎が勢い良く噴出するため、消火が困難であるとともに、使用者が負傷する危険性や延焼拡大する危険性が極めて高くなります。

メーカーによってボンベと機器の接続口の規格が異なるため、使用する機器と異なるメーカーのカセットボンベを使用した場合、結合部が接続不良によりガスが漏洩する危険性があります。



・ボンベを誤って過熱し爆発した火災

暖房機器や燃焼機器の周囲にカセットボンベ・スプレー缶を放置しており、暖房機器等からの熱を受けボンベが過熱されたことにより、爆発し火災となった事例が挙げられます。

事例の多くは、関係者が暖房機器等の近くにスプレー缶を放置した訳ではなく、多くの収容物の中にスプレー缶が紛れており、意図せずにボンベが過熱されていたという状況が多く見られます。

**ボンベが破裂爆発するため、負傷する危険性が極めて高く、過去10年間で発生した4件全てで負傷者が出ています。**

●火災予防対策

①カセットボンベ・スプレー缶の穴を開けてのガス抜きはしない。

**ガス抜きは必ず屋外の風通しが良く、火気が周囲にない場所で行う。**

スプレー缶には、引火性ガスが充填されており、火気により引火する危険性があります。

②カセットコンロ等の器具を使用する場合は、**メーカーが指定するカセットボンベを使用し、器具との接続部からガス漏れしていないか十分確認してから使用する。**

③こんろやストーブの周囲は常に整理する。

ボンベが爆発破裂した場合、破裂の勢いは凄まじく、負傷する危険性が極めて高くなります。

※カセットボンベは、使用期限が設定されており、メーカーによって異なりますが、おおよそ7年程度が安全に使用できる期限とされています。